

兄貴へ

ラジオネーム：スノーフェアリー

「じい最近べっと冷え込んできて、冬の足跡が近く感じられようになつてきた。」

兄貴、天国にも冬はあるのかい？

兄貴と俺は特別べたべた仲が良くて、いつも一緒にいた、という訳ではなかった。それでも家の中にはかりいる俺を、外に連れ出して一緒に運動する、なんてことをしていたよな。

その中でも、特に思い出されるのは、家族で行ったスキー場。

俺はじいもじキーが苦手で、じいまへ進むこともできなければ、止まることも出来ない。コースでじけて転がったり、お尻ですりずり滑ったりと、それはもう優雅なんて言えるような様じゃなかった。そんな俺の横を優雅に滑っていく兄貴。顔は似ていねど、じいでは月と蠶。それでもそこは兄貴。どあっとパウダースプレーの舞い上がらせ、俺の前で止まってみせた。わびと俺に雪がかかると、じい、それでいてかからの適おならよじいじい、何ともしも兄貴のじいとなんと思った。

俺を立てせて「足の運びはいいよ、滑るんだよ」と教えてくれた。そっけないけれど、確かに気がかけてくれている優しさが伝わってきた。そんな兄貴が事故でこの世を去った。何とも言えない距離感で接してくれて。いっしょに当たり前と思っていた人を失った。

今思えばもっと兄貴と話しておけばよかった。遊んでおけばよかった。そんなことばかり思ってしまう。

兄貴。天国にも冬はあるのかい？

まだ先になるけど、そっちに行ったらまたスキー教えてくれよ。

滑り方は教えてもらったけど、止まり方はまだ教えてもらっていないからね。

## リクエスト曲

( promise / 広瀬香美 )